

# 幼児教育科・主要科目の特長

## 【1年次】

### ○音楽表現法

～コードネーム伴奏弾き歌いおよびピアノ実技～

講義、ピアノ実技をそれぞれ隔週で受講。ピアノ実技はそれぞれの進度に合わせて個人レッスンを行う。

### ○保育内容の指導法 言葉

～子どもの言葉の発達と領域「言葉」についての理解～

子どもの言葉の発達過程を理解し、言葉を育み子どもの育ちを支える保育のあり方を学ぶ。

また、児童文化財を活用した活動の指導案立案・模擬保育・評価反省を行う演習を通して、子どもの言葉の発達を支える保育者の役割について具体的に学ぶ。

## 【1・2年次】

### ○社会福祉Ⅰ・Ⅱ

～現代社会における社会福祉の法制度と課題について～

～高齢社会の福祉と社会保険～

社会福祉Ⅰにおいては、日常生活において社会福祉の問題は“ひとごと”ではなく、自分の問題である。ノーマライゼーション思想の提唱者であるバンク・ミケルセンは、「ハンディを持った人に何かをしようとする時に一番大切なこと、それは『自分自身がその立場に置かれたら、どう感じ何をしてほしいか』を本気で考えてみる姿勢です」と語っている。社会福祉を学ぶためには、現在の日本の状況を把握することが求められる。本講義では現在の社会福祉がどのような仕組みで、どのように機能しているかといった「基礎」を学ぶ。

また、社会福祉Ⅱにおいては、1年次「社会福祉Ⅰ」の講義を踏まえ、社会保険制度特に「介護保険制度」の概要や認知症など高齢社会における課題を中心に講義する。さらに高齢社会の現状への理解を深めるために、「年金保険制度」といった社会保障制度についても考える。

## 【2年次】

### ○幼児体育Ⅰ・Ⅱ

～子どもの発育・発達段階の理解と、その時期に適した「運動遊び」の修得～  
～エアロビック・ダンス～

幼児体育Ⅰにおいて、「運動遊び」は身体的な発育・発達だけでなく、自立や社会性といった精神的な面の発達に不可欠なものである。

特に、乳幼児期は、心とからだが一体となって発育・発達する時期で、多種多様な「運動遊びを」数多く体験が望まれる。その為、保育者は幼児の発育・発達段階をよく理解するとともに、その時期の応じた「運動遊び」の実践力が求められる。従って、この授業では、乳幼児期の子どもに適した「運動遊び」を実際に受講生が体験することで、その実践力を身につける。また、保育者自らが「運動」に意欲的に取り組むことにより、受講者自身が運動習慣・生活習慣・体力の関係性、重要性を把握することで、子どもと一緒に「運動遊び」ができる保育者を養成したい。

幼児体育Ⅱでは、現代の社会生活における健康と運動の意義、運動がもたらす体や心への効果を理論として理解を深める。

また、健康な生活を送るための運動として、エアロビック・ダンスの実践方法を学び技能を高める。そして、エアロビック・ダンスの技術を用いて、グループ毎にステージ発表を考えたプログラムを創作する。

### ○子どもの保健Ⅱ

～子どもの保健の基本援助能力を身につける～

子どもの保健Ⅰで習得した健康・発育・発達の知識を基礎に、保育所や幼稚園などの保育現場において健康管理能力を養うための技術を習熟する。

本授業は、子どもの健やかな成長を見守り、健康を保持増進し、子どもの最善の利益を守るために必要な知識と技術を学び、健康状態・異常の早期発見・疾病の予防・救急処置・看護・事故防止・安全教育などの基本的な援助能力を養う。